

健康教育，ヘルスプロモーションの評価から得られること

西岡伸紀（兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授）

中村正和（(公社) 地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター センター長）

【趣旨】

健康教育，ヘルスプロモーションの評価に関する研究報告は多数に上る。評価結果はプログラムの開発や改訂，プログラムの有効性の根拠等に有用な情報を提供する。しかしながら，プロセス評価の結果は良好であるものの，影響評価や結果評価の結果は良好でない場合が少なくない。また，評価デザインの実現可能性と得られるエビデンスレベルの高さとの間でジレンマを持つこともある。評価は容易ではないが，評価の方法論は最近大きく進んでいると考えられる。

ポピュレーションレベルの介入研究や事業の評価においては，介入のプロセスと成果を俯瞰できる評価方法として，RE-AIMモデルやその改変型のPAIRREMモデル等が提唱されている。また，介入研究や事業において，教育ならびに環境両面からの介入プログラムの企画や評価のモデルとして，プリシード・プロシードモデルが広く用いられている。本学会の栄養教育研究会では，本モデルをベースに「食習慣形成モデル」を開発し，学習会等を通じて食育の評価方法の普及に取り組んでいる。また，評価のモデル等とは異なるが，個人レベルの介入研究の質を確認するチェックリストとして，ランダム化比較試験ではCONSORT声明，非ラ

ンダム化比較試験ではTREND声明がそれぞれ提唱されている。

本シンポジウムでは，評価の方法論の進展を踏まえ，実際の評価においては，どのようなモデル等を用いて，どのような評価が実施できるのか，評価により得られた結果をどのように活用するのかなどについて，発表や意見交換を行い，評価の多様な可能性を探りたいと考える。

【内容】

発表事例として，学校における食育，地域ぐるみの身体活動と喫煙への取り組みを取り上げた。その内容は以下の通りである。

1) 「健康教育・ヘルスプロモーションの考えを取り入れた学校における食育の評価」

中西明美（女子栄養大学栄養学部准教授，栄養教育研究会委員長）

2) 「身体活動促進のためのポピュレーションアプローチ「ふじさわプラス・テン」の取り組み」

齋藤義信（慶応大学大学院健康マネジメント研究科助教）

3) 「自治体におけるたばこ対策の評価－改変型RE-AIMモデル(PAIRREM)の枠組みを用いた先進事例の分析－」

道林千賀子（岐阜医療科学大学保健科学部看護学科講師）

(E-mail ; nobnishi@hyogo-u.ac.jp)